



思えばすべての始まりはあの日…
都市から少し離れたところにある村へお祈りに行った日だった気がします。
そこで村長さんから最近村人の女性が数人行方不明になっていると相談を受けたのです。
そして行方不明になっている女性たちの共通点は『胸が大きい』ということ。
人ざらいに遭った可能性もあるということでしたが、もしかすると淫魔の仕業かもしれないので
シスターである私に捜索をお願いしたいとのことでした。

淫魔は狡猾でずる賢く、なおかつ欲深い生き物です。
強い力を持つ淫魔であればこんな片田舎ではなく、目ぼしい獲物の多い都会の周辺で活動するでしょう。
実際に森は静かで淫魔の気配もほとんどありませんでした。
村の方の証言では時折くぐもった豚のような声がするとのこと。おそらくゴブリンの類だと思いました。
本来であれば戦闘用の衣装に着替えるところですが、ゴブリン程度であればシスター服のままでも問題ない。
当時の私はそう判断しました。今思えば少し…油断していたのかもしれませんが。

森の中腹まで進んだ辺りだったと思います。
突然頭上から伸びてきた太い触手に絡みつかれ、一気に木の上まで釣り上げられました。
かなり高い木の上です。よほど注意して見ないとこんなところに淫魔がいるなんて気付かないでしょう。
私の周囲には村長さんから聞いていた行方不明の女性らしき方たちが吊るされていました。
そこで気付いたんです。私も『胸が大きい』女性であることに…。

く…ッ
迂闊でした…

まさかこんな高所に
潜んでいたなんて…

おおおっ
〜

触手の力はかなり強く、おまけに表面がぬるぬると滑りました。
シスターである以上ある程度の身体能力も備えています、が、
運よく拘束を逃れた片腕だけではどうにもなりません…
自傷覚悟の範囲魔法であれば状況を変えられる可能性はありましたが、
それをする周囲に囚われている女性たちも巻き込んでしまいます。

この程度で私を捕えられると
思っているとは…

ねっ！

たぶん…

たぶん…

ねっ！

ねっ！

ねっ！

ぐ…ッ…息が…
やめ…な…さい…ッ

ねっ！
しかも拘束されているのはかなりの高所…少なからず犠牲が出てしまうでしょう…
状況を打開する方法を必死に考えようとしたが…
首を絞められてるせいで時々意識が薄れるのを感じました…
思考が飛び飛びになって…まったく捗りません…
正直少しでも呼吸しやすいように身体をくねらせるだけで精一杯でした…

私の胸に集るように触手が次々と伸びてきました…
デカ乳の女性の胸を狙う淫魔です…当然私のおっぱいが目当てなのでしょう…
運の悪いことに最初に絡みつかる際にシスター服は破られ…
ブラウスのボタンが飛ばされ…私の胸は大きく露出してしまいました…

やめてください…ッ
女神様に仕えるシスターの胸を
そのように揉むなんて…

とても恥ずべき行為です…ッ
天の御扉も開かれませんよ…ッ

唯一の抵抗手段として残されていた手にも触手が絡みつぎ
露出している箇所を隠すのもままなりません…
できたのは精々おっぱいを揺らしながらシスターとして
調子に乗った煽りをするくらいでした…





づうに包まれてるところや紐しかないところ…
教本の触手に同時に愛撫される感触はまるで人間サイズではない
とても大きな手に胸を鷺掴みにされているような気分でした…
思わず説教を説いていた口から雌の声が出てしまいます…

揉まれたところがじんわり濡れて…熱くなるんです…
おそらく淫魔が分泌している体液のせい…だとは思いますが…
単純に…揉むのがすごく上手かったんです…

※アリシアの脳内イメージです♡

私くらいデカ乳になると驚かしていただけることってほとんどないんです…♡
特に人間の殿方には絶対掴むの無理なサイズですから…♡
だからこういうのを妄想しながらオニーしてたんです…♡過10回ペースです…♡

淫魔のくせに…イ…♡
こんな大胆な…♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ちよっといい手してるからといって…♡
女性の胸を…♡こんな…玩具みたいに…♡
揉みしだくなんて…♡

この状況でいくのダメなのはわかってたんです…♡
いったら最後の力が抜けて抵抗できなくなっちゃうから考え得る限り
最悪の悪手だったわかってたんです…♡
理屈ではわかってたんですけど…揉み方が私の解釈と一致しすぎて…♡

捕まっている方々に囲まれながら…♡
デカ乳でイキました…♡
おっぱいだけで淫魔に負けたんです…♡



当然：淫魔は私の抵抗が弱ったタイミングを見逃しませんでした…♡
唯一拘束から逃れていた腕も後ろに絡めとられ…
両腕セツトで身体の後ろで縛られました…♡

あ…そんな…腕が…♡
ダメです…やめてください♡

私は…シスターですよ…♡
それを…こんなはしたない姿勢で
縛るなんて…♡

『やめてください』めたいなことを言いましたが口だけです…♡
シスターが簡単に淫魔に負けるわけにはいきませんからそれっぽいと言いました…♡
ホントはデカ乳を前に突き出す口実ができて興奮してたんです…♡
捕まってる方々…♡おっぱいで敗北イメトレオ○ニー大好きなシスターが
助けに来ちゃってゴメンナサイ…♡

そんな私の発情を感じ取ったのか…淫魔が差し出してきたのはコレ…♡
ドロツドロすぎて全然滴らないくらい濃厚な体液…♡
臭いを嗅いだだけでわかりました…♡ダメなやつです…♡

なん…でですか…？
それは…♡♡

私はシスターとしてちゃんと『ダメです』って断りました…♡
空気が足りない脳みそで必死にシスターらしい口上を考えて断りました…♡
でもたぶん断るとき顔は出来でなかったと思います…♡
だって臭いを嗅ぐだけで脳がビリビリして乳首が疼くんです…♡

ダメです……その……
見せつけるの……♡
……やめてください……♡

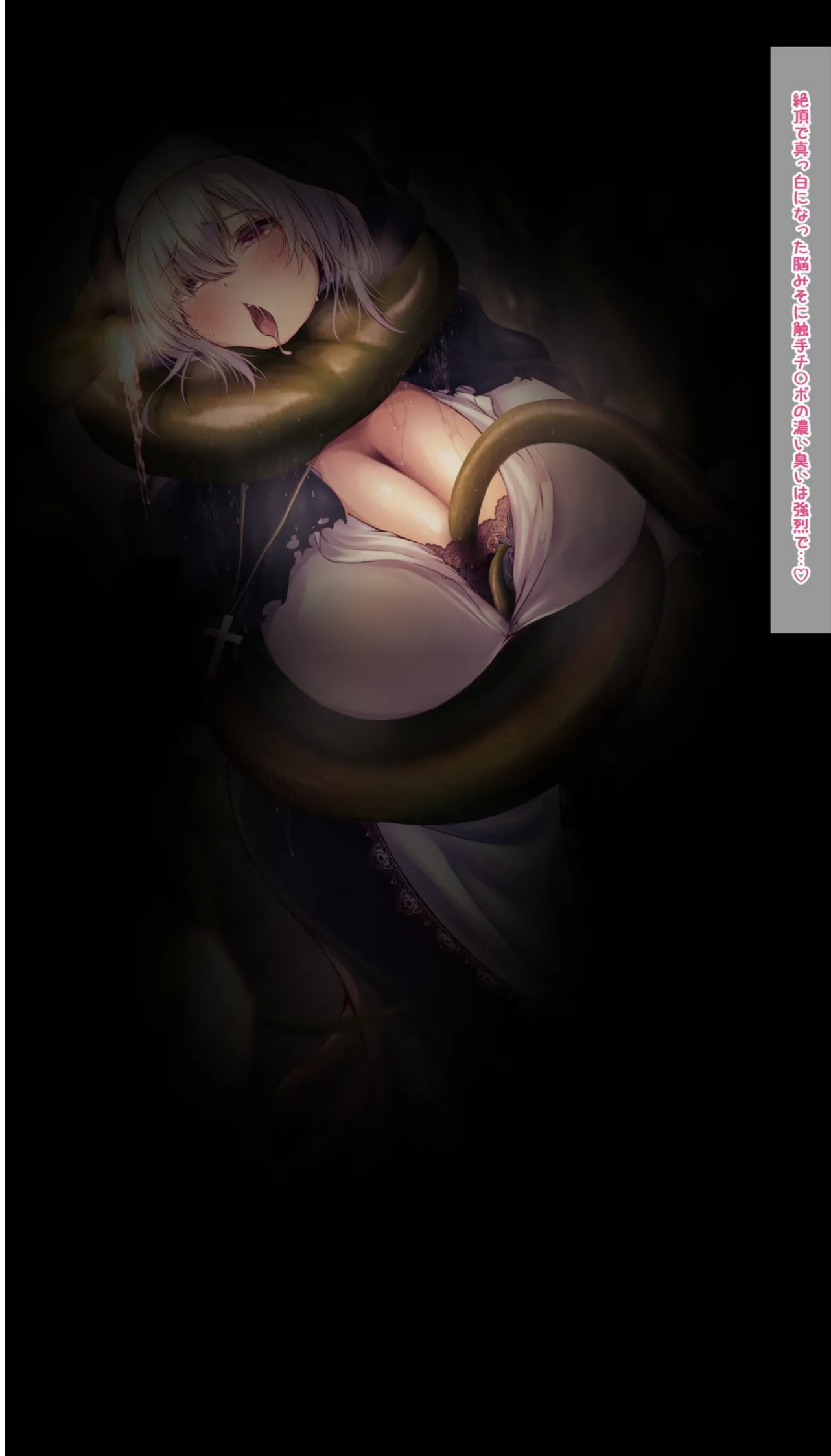
私……その……♡そう……♡シスターなので……♡
淫魔の方から……施し……♡ダメなんです……♡
あ……♡こぼれちゃう……♡♡もったいない……♡♡

飲んだこともないのに絶対美味しいってわかるんです…♡
絶対に飲んじゃダメってわかってるんですけど…♡
私の口に入らずに…ゴミになっちゃうコレが…♡
すく…♡もったいないって思っちゃったんです…♡

そしてそういう私の葛藤を全部分かってるかのような追加の刺激……♡
目の前の触手子○ポに夢中だった私は完全に不意打ちされるカク子になって……♡
また……イキました……♡デカ乳だけで2敗目です……♡♡



絶頂で真っ白になった脳みそに触手子のポの濃い臭いは強烈で…♡



いんちき...

いんちき...



気が付いたら私は夢中で触手チのボをしゃぶっていました…♡
無理やり啜えせられたのか…自分から啜えたのか…♡
それはよく覚えていません…♡この濃いジュースを飲んでいると
そういう細かい事はどうでも良くなるんです…♡

デカブーも丁寧に抜かれて…私の隣に吊るされてました…♡
周囲の方々と同じ道を着実に辿っている…♡
それはわかっていましたが抵抗する気はまったく起きませんでした…♡



それどころか…むしろ興奮していました…♡
目の前に吊るされた方の姿が脳みそに焼き付いて…♡
近い将来の自分の姿として認識しちゃうんです…♡
自分のデカ乳とデカブツで飾られてるところ…妄想しちゃうんです…♡

私は…この方々を助けに来て…なんとか助けたいって思ってたはずなのに…♡
気が付けば私はそれを見て…♡脳内でオ○ニ○するようになってました…♡
可愛そうと思っていたはずなのに…♡うらやましいとすら感じました…♡
シスターが嫉妬なんて良くないですよ…♡でも…それはどうでもよかったんです…♡

どうしたら確実に飾っていただけるのか…♡
そのための口上は…抵抗する時の言葉よりススス出できました…♡

自己紹介が遅れ…申し訳ございません…♡
私…115センチMカップのデカ乳…♡
アリシア…と申します…♡

淫魔様のデカ乳コレクションに
加えていただくために…♡
都会からデカブツ付けて参りました…♡
もちろんデカ乳は成乳可能です…♡

名前は覚えていただかなくて大丈夫です…♡
×115センチ超えのデカ乳が丸呑み希望…♡
とお伝え申し上げます…♡



私のデカ乳報告をちゃんと受け取っていただけたのかはわかりません…♡
でも…♡またおっぱいを触手で鷺掴みにしていただけたんです…♡
デカブラなして…しかも淫魔様の特濃体液をたっぷり飲ませていただいた後ですから…♡
こうしておっぱいを軽く揉まれるだけで普通にイケました…♡

おっ！

はっ！

はっ！

はっ！

おっ！

おっ！



※アリシアの脳内イメージです♡

淫魔様…♡それ気持ちいいです…♡
もっと…♡もっと揉んでください…♡

瞳を閉じればさつきよりはっきりと大きな手をイメージできました…♡
デカブラ抜かれたからではありません…♡
私の中でこの淫魔様のデカ乳ツレクシヨンに加えていただくイメージが…♡
堕ちるイメージが固まったからだと思います…♡

もちろんシスターとしての本分を忘れたわけではありません…♡
むしろシスターとしてデカ乳を揉まれてるから興奮するのです…♡
こうして人目のない場所に連れ込まれ…理想の殿方にデカ乳だけで
墮としていただく…♡背徳感で脳内麻薬バドバです…♡

本当に…幸せな時間でした…♡
デカ乳をじっくり揉みほぐされながら…♡
お口と谷間の両方で雌堕ち確定ジュースをいただく…♡
おっぱいの中と外からマージングされているみたいでたまりません…♡

信仰のために司祭様や信者の方々と股間を重ねることはありましたが…♡
そんなに徹底してデカ乳扱いしていただけるのは初めてでした…♡
雌として子を宿すことは大変光栄なことでもそこに疑問を感じたことは
ありませんでしたが…♡

毎晩自分のベッドで私のこのいやらしく発育したデカ乳を…♡
殿方に見られながらマジバस्तをご報告する妄想をしていた私にとって…♡
『アリシア』ではなく『デカ乳』として扱っていただけのこの状況は…♡
非常に胸に落ちたのです…♡性癖の100%完全一致です…♡

きつと毎晩私のデカ乳報告オ○ニーを天から見られていた女神様が…♡
メイドル超えの変態デカ乳にふさわしい場所をご用意して下さったのでしう…♡
私がこないやらしい身体で今までシスターをやっていたのは…♡
ここで淫魔様のデカ乳コレクションとして並べていただくためだったのだと感じました…♡

早く私もこの方々のように…♡
全部…食べていただきたい…♡♡
心の底から…そう思っちゃったんです…♡

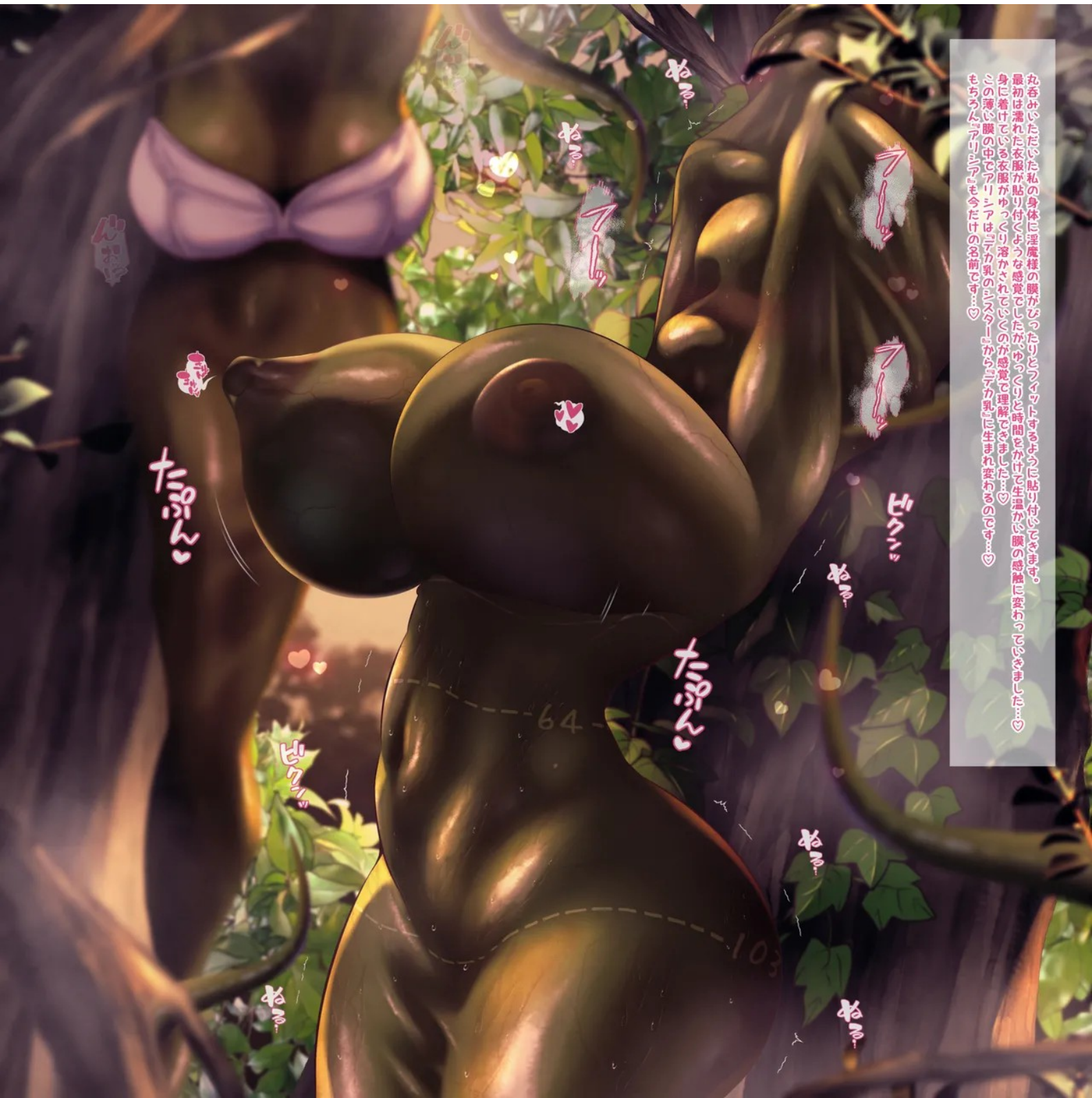


淫魔様…♡アリシアのデカ乳…♡
もうパッチリ仕上がっております…♡
淫魔様に服従誓ってます…♡

シスターの魔力たっぷり濃厚ミルク…♡
ぜひご賞味いただきたいです…♡
こんな吸いこたえなさそうな方々より
絶対美味しいですよ…♡

女神様に誓って保証いたします…♡
だから…♡淫魔様…♡お願いします…♡
早く…♡早くこの卑しい雌ウシを…♡

どうぞ…♡
お召し上がりくださり…♡



丸呑みいただいた私の身体に淫魔様の膜がびったりとフィットするように貼り付いてきます。
最初は濡れた衣服が貼り付くような感覚でしたが、ぐんぐんと時間をかけて生温かい膜の感触に変わっていきまして…♡
身に着けている衣服がゆっくり溶かされていくのが感覚で理解できました…♡
この薄い膜の中でアリシアは「デカ乳のミスター」から「デカ乳」に生まれ変わります…♡
もちろん「アリシア」も今だけの名前です…♡



この胸は淫魔様の胃袋に当たるもの…なのだと思います…♡
胃袋にデカブー巻いて中に入ってる雄を識別するわけですよ…♡
私のようなマソのデカ乳にはこの方法はすごい効果的ですよ…♡
たっぷり外からどう見られるのか…臨みそでイメーシ生成する時間もあつたので尚更ですよ…♡
スミマセ…♡変態のお聞き苦しい話失礼しました…♡
この中で私たちがデカ乳が何をさせていたいただけるのか…なんですけど…♡

簡単です...♡腹内で射乳するんです...♡
あ...♡射乳というか...潮噴きとか...♡失態とか...♡体液まき散らすやつ全部ですわ...♡
無理やりじゃないですよ...♡淫魔様が愛撫していただけるので余裕で出ます...♡
もちろんそういつたものが外に出ることはありません...♡
全部この胃袋で吸収されて...♡一滴残らず淫魔様のご飯になります...♡





私はシスターとしての経験を活かして乳腺にたっぷり魔力を込めて美味しい母乳を作らせていたんだけどさ、どうもあって……特に時間をかけて登して下さりました……♡
 こういうのは魔力の濃液にもつながるので教義で硬く禁じられているのですが……♡
 私は「元」シスターです……♡今は淫魔様のデカ乳ですから関係ありません……♡



むしろこんなにもデカ乳扱いして...♡愛していただいているのですから...♡
私も本気で母乳作らせていたんだけどデカ乳名乗れません...♡
それに...♡女神様もこれが私の運命だと仰っておられますから...♡
さっさと胸に挿入したところの濃厚母乳を作ってもお許しただけると思っています...♡

64

103

ああ…♡女神様…♡
このいやらしいデカ乳にふさわしい運命をご用意いただき…♡
♡ありがとうございます…♡
毎日欠かさずデカ乳報告オ〇しした甲斐がありました♡
♡♡
アリシアはびたすらデカ乳を愛していただける理想の敵方と出会えてとても幸せです…♡

おれ

願わくば...この幸せ日々が...♡
永遠に続きますように...♡

To be Continued...